

# 原子爆弾の惨禍を 今に伝える 「原爆ドーム」



平和記念公園内にある  
「原爆ドーム」



原爆ドームと厳島神社を結ぶ「世界遺産航路」

原爆ドームは、広島に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える世界文化遺産です。チェコの建築家ヤン・レツルが設計し、広島県物産品の販売促進を図る拠点「広島県物産陳列館」として1915年に開館しました。洋風・和風庭園も整備されたヨーロッパ風の建物で、後に「広島県立商品陳列所」「広島県産業奨励館」と改称されていきました。

1945年8月6日に原子爆弾が広島に投下され、爆心地周辺の建築物はほとんど崩壊しましたが、ほぼ真上からの爆風を受けたことや、レンガ造りで窓が多い造りだったため、この建物は全壊を免れました。戦争が終わり、いつしか市民より、建物頂上の天蓋の残骸が傘状になっている姿から「原爆ドーム」と呼ばれるようになったと言われています。その後、多くの人々の運動や署名等により、被爆後51年経った1996年に、世界文化遺産として登録されました。

現在、原爆ドーム周辺を含む広島市は、焼け野原から一転、復興繁栄し、100万人以上が暮らす賑やかな街となり

ました。原爆ドームのすぐ横を流れる元安川の栈橋からは、原爆ドームと並ぶもう一つの広島の世界文化遺産「厳島神社」がある宮島を結ぶ定期船が就航しています。今年の宮島は、2012年大河ドラマ「平清盛」の主要舞台です。「平清盛館」もOPENするなど、例年以上の盛り上がりを見せています。

また、来年4月19日～5月12日には、全国のお菓子を集めた博覧会「第26回 全国菓子大博覧会 ひろしま菓子博2013」が、原爆ドーム向い側の、旧広島市民球場跡地・広島県立総合体育館とその周辺で開催されます。これは、1921年、当時の広島県立商品陳列所（今の原爆ドーム）で「第4回全国菓子大品評会」として行われて以来、92年ぶりの広島開催です。

原爆で壊滅的な被害を受けたにもかかわらず、今では多くの緑に囲まれた街、広島。その復興のシンボルでもある原爆ドーム。平和への願いとこれからの希望に溢れたこの場所へ、ぜひお越しください。

(協力/広島県商工労働局観光課)

## <アクセス>

